



体験版

その花びらにくちづけを

わたしの王子さま

ふぐり屋





『北嶋楓』さん

国語科水金土	
1	
2	
3	
4	
5	
6	

黒板に 正の字が
書き加えられていく

既に8割方
開票されている

そして 票のほとんどに
『北嶋楓』という名前が
書き込まれていた

『北嶋 楓(きたじまかえで)
それは間違いなく私の名前』

…はあ

一つだけ…たった一つだけ
言いたいことがあると
すればそれは――





どうして...
今年も私なの？



ここは
『聖ミカエル女子学園』

名前の通り
神の下に集う
少女たちの園

そこでは 清楚可憐 純真無垢
いずれも由緒ある家に育った
純粹培養の乙女たちが…

日々を勉強と 神への
奉仕に費やしている

そんな良家の子女ばかりが
集まる花園に 一人迷い込んで
しまった哀れな子羊が――

私…
北嶋楓なのだ


はあ…

注目を浴びるのは
凄く苦手

正確には
人と関わるのが
ちよつぴり怖い

それは別に
他人が嫌いだとか
そういうことではなく…



A young girl with purple hair styled in a braid, wearing a red school uniform with a white collar and a black bow. She is standing in a classroom with rows of wooden desks and chairs. The room has a green chalkboard, a calendar, and a speaker on the wall. The lighting is warm, with yellow lamps hanging from the ceiling.

周りは眩いばかりの
宝石たち

その中に 私みたいな地味で
なんの取り柄もない女の子が
混じってるなんてことが…

恐れ多いことのような
気がしてならない

だから眼鏡をして
髪を縛って…出来る限り
目立たない恰好をしている

なのに どうして…みんな
私をクラス委員なんか
に選ぶんだろう…

面倒を押しつけたくて
意地悪で投票している
なんてことはない

そんな狭量な
考えを持った学生は
この聖ミカエル女学園
にはいないのだ



北嶋さんへの投票数が
過半数を超えたので…

今年度もクラス委員は
北嶋さんに決定しました

おめでと〜いございます
委員長♪

悪意のない笑顔で
賛辞を送る彼女



では委員長
就任の挨拶を
お願いします

…はい

みんなの視線が
一気に集中する

これが
苦手なのよ…ううう



投票ありがとうございます
ございます

今年1年もクラス委員を
務めることになりました

皆さんがより良い
学園生活を送れるよう
頑張ります



パチパチ
パチパチ

同意の拍手が
送られたことに
少しホツとした

1年間やってきたこと
とはいえみんなの前で
話すのは未だに慣れない

今だって 足が少し
震えているくらい
なんだもの…



では早速 各委員を
決めましょう

選んでもらえるのは
嬉しいけど 幸先が良い
2年生の始まりとは言い難い

私はごっそり
ため息をついた






Front wall featuring a large green chalkboard with a wooden frame. To the right of the chalkboard is a bulletin board with a calendar and a small notice. A wooden podium is positioned in front of the chalkboard.

Calendar on the bulletin board:

月曜水金土						
1						
2						
3						
4						
5						
6						



委員長 1年生の話
お聞きになりました？

いいえ
これとムリ...

今日が初登校の
1年生がいるそうなの

まあ今日...??



その子 現役の
モデルなんですって

…モデル？
モモデルって…あの
ファッション雑誌に
載るような？

そうっその
モデルらしいですわ〜

まあ…それは
凄いですね



ぜひ一度 お目に
掛かりたいわ〜

同じ学園に通っているなら
いつか会うことも
あるでしょう

でも 早く会って
みたいですね
1年生の教室に
行ってみたいかしら？

くすくす♪
せっかちなんですね



なんだか彼女が
可愛らしくて
私は笑みを深くした

それにしても 新入生が
モデルだったなんて…

きつとお仕事で
1日遅れてきたのね



遅れた理由はどうあれ
既に上級生にまで
知れ渡っているなんて
凄いことだわ

モデルをしている
くらいだから本人は
さぞかし華のある子
なんでしょうね

イメージ通り
だとしたら—
私とは全く逆ね





……ん？

昼休み…図書室から
本を借りてきた帰り
廊下に人だからが
出来ているのが見えた

見れば一人の女の子を
大勢が取り囲んでいる

みんな黄色い声を
出しているようだけど
囲まれている
あの子は誰かしら



顔なんて
お人形みたいに
小さいのね〜

可愛らしくて
羨ましいわ

ありがとう
ございますっ



今日はモデルさんのお仕事がないの？

はい 今日はお休みをもらいました

せっかく入学できたんだしなるべく通おうと思って



モデル？

とらいついとは
囲まれてる子は
噂の子？

それなら人だかりが
出来るのも頷けるわ



でもどうして
ミカ女を受験されたの？

ああそれは…
この学園に通う ある人を
探しに来たんです

では…その方を
追いかけて？

そうです



まあ素敵なお話ね〜♪
その方にはもう逢えて??

いいえ実は
まだなんです

名前は分かってるん
ですけどどのクラスか
分からなくて…



よければ
捜しましょうか？

えっ
いいんですか？

もちろんよ
私も手伝いますわ

わー
助かりますー！！



モデルの子は…
誰かに会いに
ミカ女まで来たのね

そういうの
少し憧れ—



ん…あれ？

モデルの女の子が
人の波をかき分けて
こっちへぴよんて来てる

あれれ？

え…？この子…
明らかに私を見てるわ



ああああ——っ!!

ひっ

指をさして大声で叫ぶ
モデルの女の子

あなた有名人なんだから
指をさされると
私まで注目を
浴びちやうじやないの〜



楓ちゃんだよね!

ひ人違いです

その声やっぱり
楓ちゃんだあ♪

人違いですっ
私：あなたを
知りませんものっ

まがもあつ!?

おはよう

つかまーえた☆



んん

んん

なっ
!?

ちゅちゅ

んん



んんん

んんん

ぎん

突然のことに
固まってしまった

柔らかな唇が…
押しおおお押し
押し当てられている!!?



わんわん

わんわん

ぎゃー

きゃあああ
く〜んん♪

周りの女の子達は
羨ましそうな
声をあげていた

うちのお嬢様学校では
滅多なことではこんな風に
騒がないのだけど…

楓ちゃん…

え…

会いたかったよ
おおおおお

とっさ

ぎゅ

きやあああああつ!?
は 離れてえ〜〜

もう絶対に
離れないいいいいっ

お願い 離れてっ
一刻も早く ふええっ

とっ
ちゅ

ぎゅ
っ

ああ楓ちゃんの
匂いいい...はあはあ♡

嬉しいっ
ちゅっ♡ちゅっ♡

ああもう初めての
キスなのにい〜

ファーストキスが
見知らぬ美少女だなんて

とっぴ♡

びゅん!

なんで?
どうして!?

ちちよつと
あなた…

ドキ

間近で見て
心臓が飛び跳ねた

この子ただの
美少女じゃない…
超美少女だわ

まるで…
絵本から出てきた
妖精みたい…

女の子らしい
白くて細い手足…
嬉しそうに私を見つめる
くりくりの瞳

それに
私を『楓ちゃん』と
呼ぶその声も——



……？

でもこの子……どいかにで……
見たことがあるような
ないような……

そもそも私を『ちやん』付けで
呼ぶ人は……両親以外に
一人しかいないのよね

でもあの子は……遠くへ
引っ越してしまったから……

ああの
どちら様なのっ？

あなた 人違いを
されてると思うわ

だって
楓ちゃんでしょ？

そ
そうですけど…



もー
他人行儀だなあ♪

紗良だよお 紗良っ
北嶋紗良っ ホントに
覚えてないの？

えっ

ちゅ...ん...?



記憶の中にある
『紗良』という女の子を
掘り起こしてみる

知っている女の子で
『紗良』という名前は
1人しかいなかった

ついでに私を
ちゃん付けで呼ぶたつた二人の
子の名前も 紗良という

でも…紗良は
引越したのよね…？

うんでも楓ちゃんに
会いたかったの

うん...

ほんとほんと♪

だって
あなた—



あの頃と全く雰囲気
違うじゃない!

とても
信じられないわ!?



れん

んむつ

ただいま
楓ちゃんっ

んむつ!?

ぎん



晴れやかな笑顔の
紗良が抱きついてくる


嬉しくて仕方が
ないような顔だけど…

とっぴん

ぎゅ


突然の再会に…
私は抱きつかれたまま
呆然としていた…





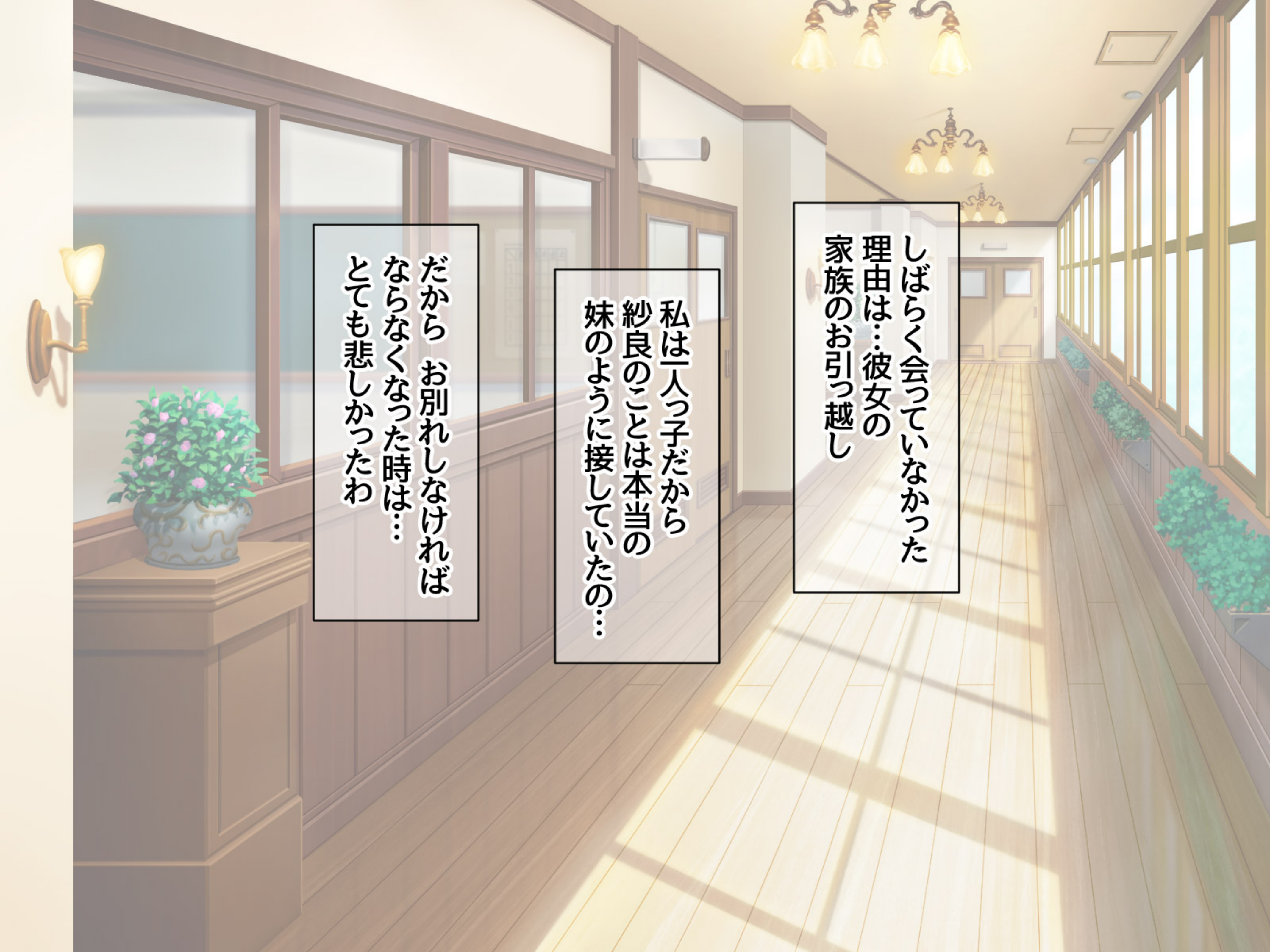
女の子の噂が
広まるのは
とても早くて――

次の休み時間には
クラスの誰もが
私と紗良のキスを
知るところとなっていた



紗良は私の
お父さんの弟の娘…
つまり従妹にあたる

子供の頃
近くに住んでいて…
よく遊んでいたの



しばらく会っていなかった
理由は…彼女の
家族のお引越

私は一人っ子だから
紗良のことは本当の
妹のように接していたの…

だからお別れしなければ
ならなくなつた時は…
とても悲しかったわ

昔はとつても泣き虫で
いつも何かに怯えている
ような子だったのに…

目で紗良だと
気付かなかつたのも
無理ないわよね

それに比べて
私は…

窓ガラスに映る
自分の姿を見て
ため息をつく

はあ

目立ちたくなくて
こうしているのに
なぜか
切ない気持ちになる

紗良はあんなに素敵に
成長したのに
私は…

私…このままで
いいのかな？



楓ちゃんっ

え？

不意に名前を呼ばれ…
振り向いたら紗良がいた



ねえねえ楓ちゃん♪
学園を案内して
欲しいなー

私がつ？

お陰でお昼で教室から
出てきた学生達が
一斉に私たちを見る



いいでしょ
お願いっ

がばっと
抱きついてくる紗良

そそそ そんな
ことをしたら 余計に
目立つじゃないのー!



はああん
ぬくいっ♪

私で暖を
とらないのっ

ねーねー
いいでしょー？

さ紗良…
ちよっといっしゅいっ…



ほえ？

紗良に抱きつかれたまま
彼女を廊下の端に連れてくる

これで少しは
目立たない…はず



こんなところに
連れてきてえ…紗良と
2人きりになりたいの？

えっ？

きゃああん
照れるよお

どうして照れるのか
分からないわ…



楓ちゃんって
大胆…♪

だ
大胆…？

案内より
紗良と空白の時間を
埋めたいんだよね？

…そ
そうね
それはあるかしら…？



やっぱりっ

けど紗良…案内して
欲しいって言うってたけど
私以外に誰かいないの？

楓ちゃん以外
なんていないよー



ね…楓ちゃんじゃ
ダメなの？

そんなこと
ないけど…

上目遣いで私を見る
彼女に思わず
目を反らしてしまう



紗良は…楓ちゃんに
案内してもらいたいの

他の人なんて
ヤダもん

でも…



お願いっ

きゅわんわんとき
抱きしめる手に
力を込める紗良

久しぶりに会えた子に
ここまで言われたら
断りづらい



お願いお願いっ
おねがうっ

私— ごめんなさい

楓ちやんちやんち

お願いだから
大声出さないでえ!?



じゃあ
大声出さないから
案内して?!

そういう問題じゃ
なくて...えっと...

楓ちゃん
お願いっ♪

わわかったわ...



ほんどー？

わあい
ありがとう♪

更に抱きしめようとする
紗良の手をぐっと握って
押しとどめる



ほえ？

い行くなら
早く行きましょ

うにゆ…
はあ

紗良はちよつぴり
残念そうな返事をした



私はごっそり見回して
辺りの様子を伺う

案内するならば…
今のうちね

ごっちょよ
紗良



うん♪

私が歩き出すと紗良は
後からぴよぴよ
歩いて付いてくる

その姿は小さな
動物のようで可愛かった





A young girl with purple hair styled in a braid, wearing a red school uniform with a white collar and a black bow. She is standing in a hallway with wooden floors and white walls. There are windows on the left and doors on the right. A sign above one of the doors reads "三年一組".

主にこちら側の校舎は
各クラスの教室があつて…

別校舎に
特別教室があるの

図書室とか 視聴覚室とか
音楽室とか 保健室とか…

うんうん

ニコニコ顔で私を見ながら
廊下を歩く紗良

私の話なんて 上の空で
聞いているみたい



ね？ 楓ちゃんは
部活動に入ってる？

え？ いいえ

じゃあじゃあ
得意な科目はなに？

得意科目って…



そそうね…文系の方が
割と好きだけど
得意となると…

つて全然案内とは
関係ない話よねこれ

私はムリヤリ
話を戻そうとした

三年一組

楓ちゃんて
優等生？

えっ
…な
なんで？

んーそんな
感じがするから

……



この眼鏡と
髪型のせいかしら

久しぶりに会った
紗良にまで
言われるなんて

地味になるよう
努力しているのが
逆に目立つのかしら



優等生かどうかは
分からないわ…

でもみんなは私を
『委員長』と呼ぶわね

楓ちゃん
クラス委員なのっ？

ええ…



すっぴんっ
すっぴんっ
すっぴんっ！

三年一組

.....

あれれ？ なんだか
嬉しくないみたい

そそんなことないわ



でもみんなに
慕われてるなんて…
サスガだね〜

昔とちつとも
変わってない♪

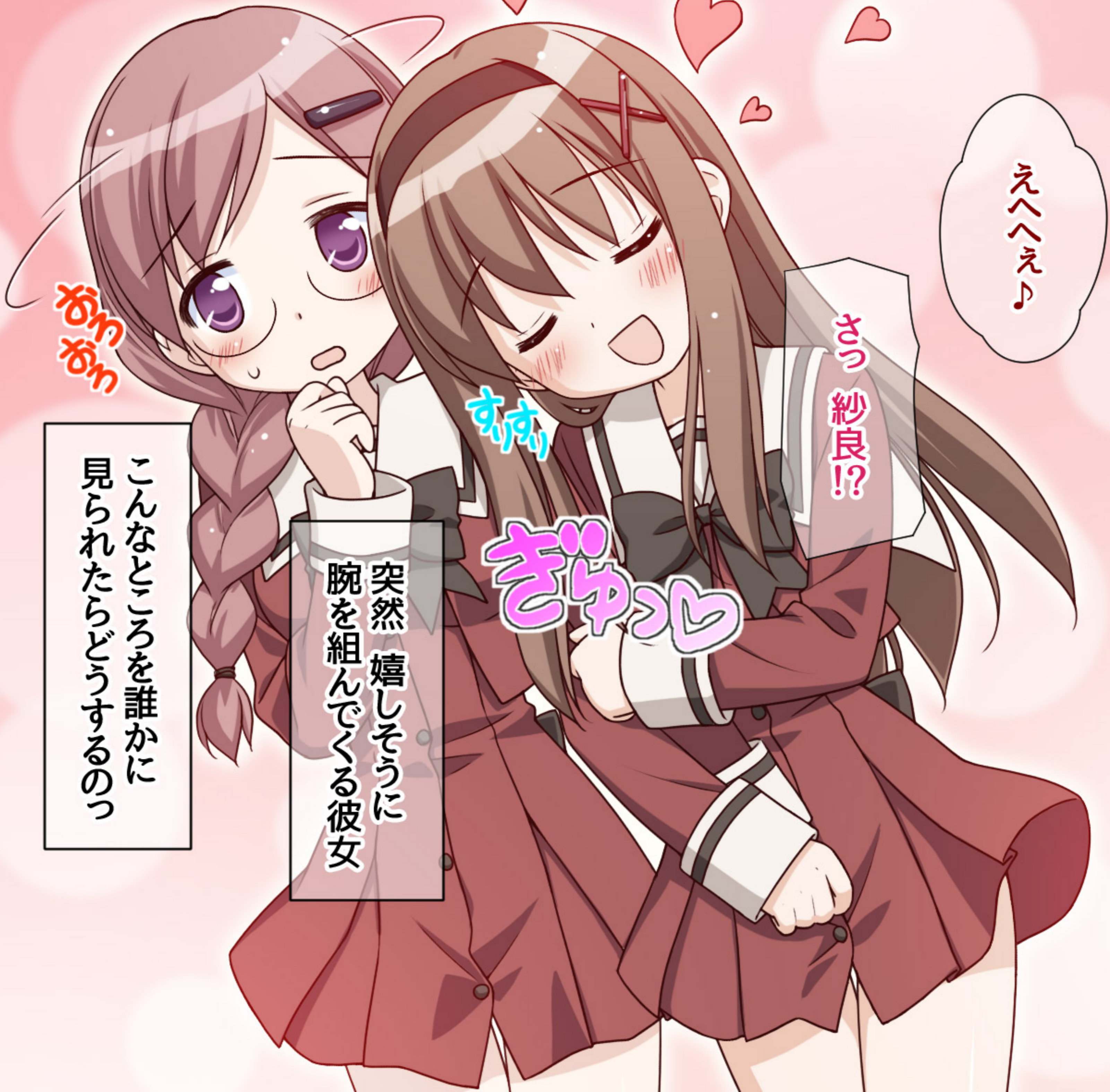
そんな…



確かに…昔から
クラスメイトから頼りに
されていた気がするわ

けれど…それが
いいことなのか
悪いことなのか…

華やかに変身した
紗良を見ると複雑な
気持ちになってくる



おわおわ

こんなところを誰かに
見られたらどうするのっ

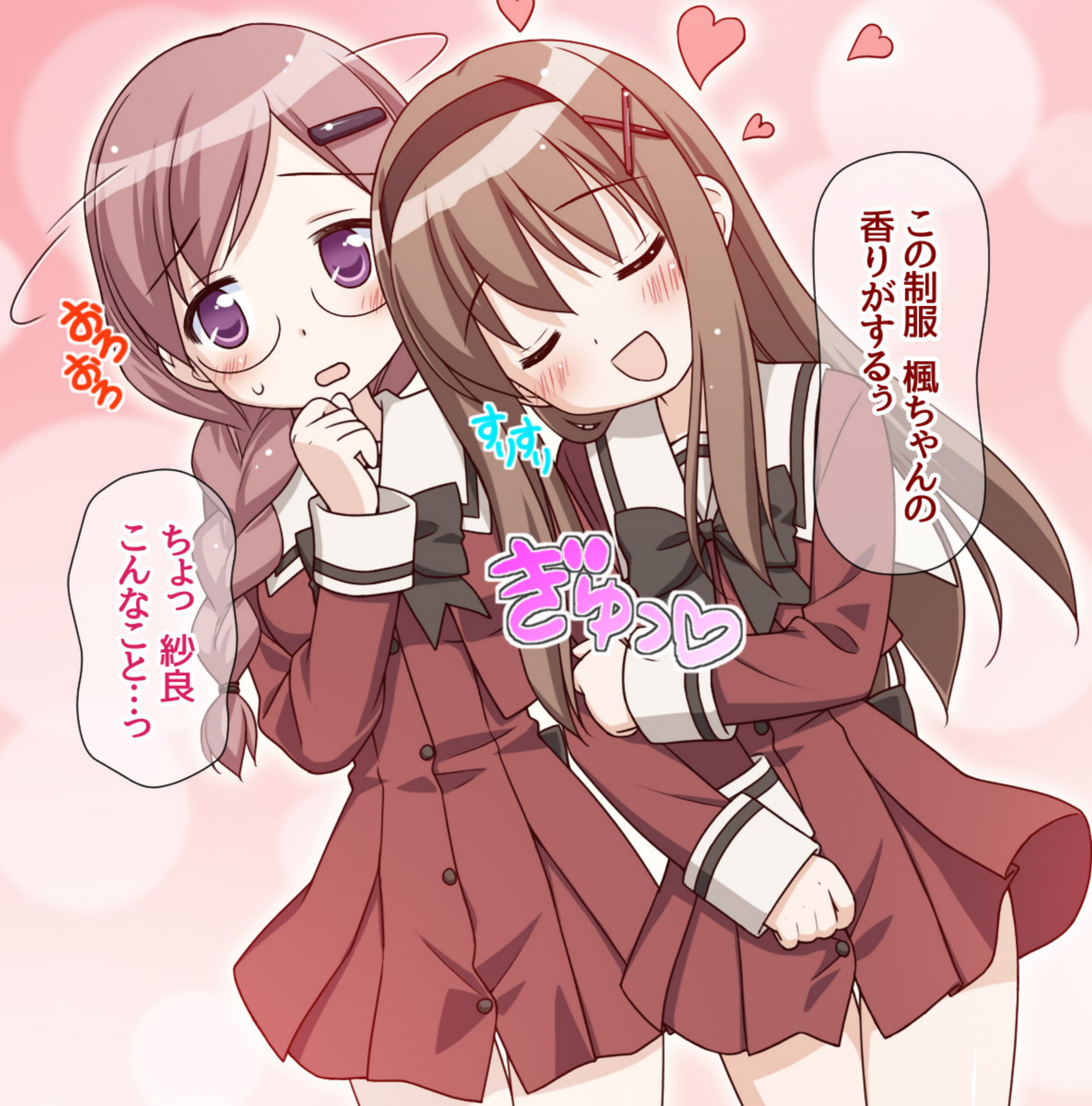
突然嬉しそうに
腕を組んでくる彼女

すす

ぎゅっ♡

さっ
紗良!?

えへへえ♪



おんおん

ちよつ 紗良
こんないしと...!

すす

ぎゅっ♡

この制服 楓ちゃんの
香りがするう

ずっと会えるの楽しみに
してたんだからね

は離れて…

すずすず

ぎゅっ

嫌よ嫌よも
好きのうちだよ

おんおん

今回は
違うわっ!?



まあ紗良さん
じゃない♪

あら本当だわっ

わわっ

しかし…ちよつと廊下で
立ち止まっていただけで
私は紗良と共に
取り囲まれてしまった



雑誌よりもすごく
可愛いわよね〜

今度可愛い洋服の
お店教えてね

はい
よろしくです♪



隣にいる私には目もくれず
彼女たちは紗良へ
熱心に話しかけ始めた

それくらいの差が
私と紗良には
あるというくらいです

さ 紗良って
もの凄く有名なのね



休日は何を
なさっているの？

洋服を買いに行ったり
家で爪を手入れしたり
普通ですよお

お洋服はどちらがぶりっ？

ええっとお

.....


大勢の人がいるから
とても居心地が悪い…

ここから抜けだして
静かな場所に行きたい…

これだけの人に
囲まれてしまったら
学園内を案内するなんて
無理だろうし

私 教室に
帰るわね？





こここれでは案内は
無理でしょう?!

あ…案内は他の人に
してもらってちようだい

それに…いつまでも
こうしていたら
お昼の時間が
なくなってしまうわ

口が滑って
つい…

あ…しまった
言い過ぎたわ

っ!?



…そんなに紗良と…
一緒なのが嫌なの？

そう
そうじや
ないのよ？

えつとごめんなさい…
さっきの言葉は違うの
でも…



どうしてなの？

どうしてなの？
その...

とにかくっ
別の機会にしましょっ？



どうして…そんな
冷たい言い方するの？

冷たいだなんて
そんなつもりじゃないわ…

紗良のこと
嫌いになったの？

ち 違うわ
そうじゃないのよ



…そう見えるよ

紗良は俯き 長い髪が
表情を分からなくする

辺りは
水を打ったように
静まった



三年一組

あ…私 紗良を
傷つけてしまったんだ…

どうしても酷い人じゃあ…
言ってしまうと…

三年一組



…う

紗良？

えっ なに？

紗良は顔を上げると…
私の腕を引いて
歩き始め—



三年一組



紗良が連れてきたのは
薬品の匂いが
微かにする保健室だった

どとうしたの？
紗良…



はい

きやう

そのまま真っ白な
ベッドに押し倒された

紗良は私の上に乗
腕をベッドに
食い込ませていく

私は訳が分からず
紗良を見た

ばか…

紗良は私の胸を
「気」にだけさせた

ズ
ン

ズ
ン

そして…
私のスカートの中に
そっと手を忍ばせてくる

なににしてるのっ
冗談はやめてっ

おま...
おま...

どうして...
冗談だと思っうの？

さ...紗良！

す
す



紗良は…楓ちゃんの
全てが欲しいよ

おま…おま…

なに言ってるの?とにかく
手を放しなさい 紗良っ

…放さないよ

オオオ

なにを考えているか
全く伺えない表情で
ショーツ越しにさわられてる

やめなさい
紗良…んはっ

おん…おん…

感じてる顔…
とっっても可愛い…♡

固い声色のまま
紗良の手は割れ目の
線を擦り立てる

細い指の腹で
強めに滑らせば…

すす



ひあん！やめてっ
ん…あんっ

やだ紗良…
んんん…！！

あッ♡
んっ…

クリトリスの辺りを
指で摘み上げると
指の間に挟んだまま擦った

クチュ
クチュ

私の体は紗良の刺激に
敏感に反応してしまう

楓ちゃんの
喘ぎ声って...
可愛い♡

紗良っ!!

もっと
感じて...??

紗良の前で...
もっと恥ずかしい声
出して??

あーっ
んんん
んんん

あっ♡
んんん...

なにを言ってるのっ
やめなさい…ひあうう！

紗良 ああ
ダメだつてばあ…
ん あん…はあんっ

あッ♡
うん…

クリトリスが敏感だと
分かった紗良は
その場所ばかりを
責めてきた

ク
ク
ク
ク
ク
ク

堅くなってきた淫芽を
円を描くように
ショーツで擦る

嫌
言わないで…
ん
んはあつ

紗良の指
濡れてきたみたい

あ…あつ 紗良 そこ
感じるの…あつ ああんつ

あつ
あつ
あつ

あ
ん…

おっぱい…
大きく
なったんだね？

紗良は小さいまま
なのに…いいなあ

はあ♡

はあ♡

んっ

んっ

はあ♡

はあ♡

ちゅっ♡
ちゅる…んっ♡

あうんっ
ダメ紗良…
あッ ああん…
んっ…んっ

私の体はどんどん
敏感になってゆき…

まさぐる指が
気持ちよくて
身を振らせてしまう

はあ…はあ♡

はあ♡
はあ♡

んんん
んんん

可憐な紗良の
息づかいも荒い

はあ♡
はあ♡

ちゅ♡んちゅ…
ちゅるるっ
ちゅぽっ♡

あ…んあんう…ん
そんなに吸っちゃ
ダメえあ…はあんっ

んっあ♡
紗良…あっ♡
んん…いイクう

はあ♡
はあ♡

んっ
んっ

ぞわりと全身が震え
快感が押し寄せてくる

はあ♡
はあ♡

体が快樂を求めて
自然と脚を開いてしまっ

イクっ イツちやう…
あっ いやあっ

はあ♡
はあ♡

んげん♡
んげん♡

イツちやえばいいのよ
楓ちゃんなんて♡
ちゅ♡
んぢゅんぢゅん♡

紗良に恥ずかし♡
見せちやえば
いいんだから…♡

はあ♡
はあ♡

んっはあ…
いやあ…

あま…あま…

はあ…はあ…

紗良の力が
次第に緩んでいく

私は絶頂の余韻を
味わうように…綺麗な
紗良の顔を眺めていた

ビーン

ビーン

ビーン

ビーン

はあ
はあ



ど...
どうしたの...?

ふんふん

紗良...?

う...う...う...

みるみる紗良の瞳に
涙が浮かんでくる

お人形のような顔が
歪んでしまう

唇をきゅいっと
噛んでいるのに
薄い唇が震えていた





楓ちゃんが居るから
ミカ女を受験したの…ッ

ずっと
会いたかったの

ええっ？

…じくじく
紗良のいど
嫌いにならなごじ…

たつた今あんなことを
したかと思えば 今度は
いきなり泣き出すなんて…

紗良の行動が理解できずに
私はまたもや
されるがままになった

ただ さつきとは違い…
密着した肌を通じて
紗良の悲しい気持ち
伝わってきた



お願いだから
紗良のこと避けないで…

楓ちゃんに嫌われたら…
どうしたらいいか
分かんないっ

そんな…

大袈裟よという言葉は
心の底にしまい込んだ





ふええっ
楓ちやあん...

ひっく...
お願い...

...

その泣き顔は記憶にある
紗良の表情の中で
一番覚えていた顔だった

いつもなにかあったときは
私に抱きついて
泣きじゃくる

あの頃と一緒だ

今も変わっていない
部分があった






そして
今の紗良を見て…？

私 良く思っただけ…

そう思ったら
体から力が抜けた

ふっ…



どう？よく見れば
あの頃と
変わってないでしょう

いつも私の傍にいて
慕ってくれた紗良

なにかあったら
私を頼って泣きじゃくる

私はそんな紗良を
全身で受け止めていた

あの紗良が成長すれば
きつといま私の胸で
泣いている紗良になる

ベッドに押し倒したのは
哀しみの裏返し



私は紗良のことを
受け入れられる

大丈夫



ぐすっ…
っ…ごう

止めどなく溢れる
涙は宝石のよう

泣き虫なのは
相変わらずね

私はぽろぽろと
泣く紗良が
愛おしく感じた



紗良

壊れ物に触れるように
そっと優しく抱き寄せる

ひくっ
楓ちゃん……？

不安にさせて
ごめんなさい



紗良を嫌いになんて
なるわけないじゃない

紗良があんまり
綺麗になって
現れたものだから
驚いてしまったの

私を置いて そんなに
可愛くなるなんて
酷いじゃない



ち 違うよ…
ほんただもん

お世辞はいいの

楓ちゃんだったって…
ひくっ…可愛いもん



それはともかく
私は紗良が
嫌いなんじゃないのよ

それだけは
判つて？

ほんとに...？

驚いただけ？



紗良のこと
避けたりしない？

嫌いに
なったりしない？

ええ

私は
しっかりと頷いた



可愛い紗良

こんなに魅力的な
容姿になったのに
中身はあの頃のままだ

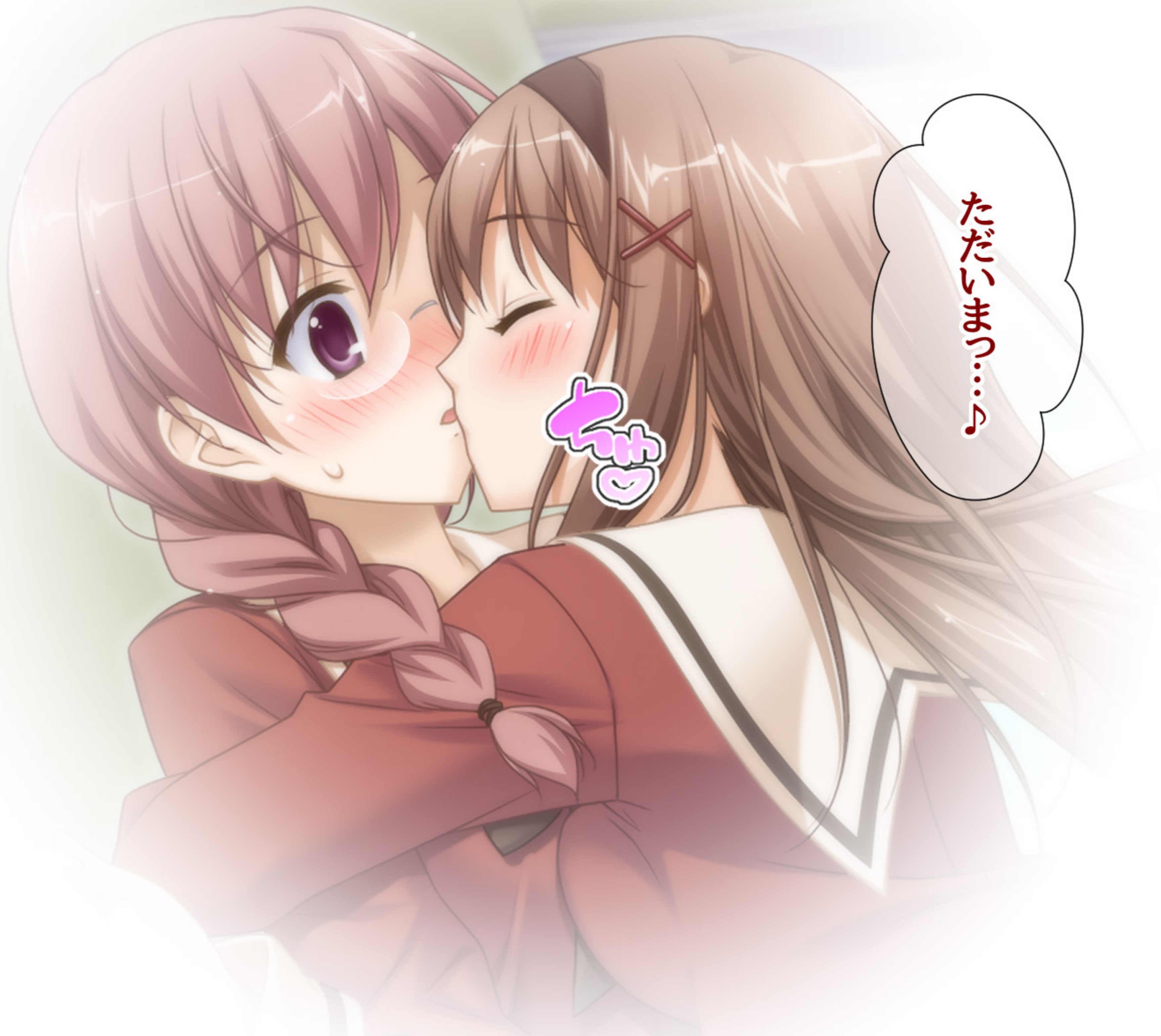


お帰りなさい
紗良

抱きしめる手に
力を込める

ぎゅ





とんちん

ただいまっ...♪



その花びらにくちづけを

わたしの王子さま

楓ちゃんの良さに
気付かないなんて
ミカ女の子は
どうかしてるよ

肌を出してないから
気付かないのかなあ

はあん…お女の子が
みだりに肌を
出すものじゃないわ…んう

そそうだけど…

はあ♡
はあ♡

♡
♡

その花びらにくちづけを
わたしの王子さま

その花びらにくちづけを

わたしの王子さま

はぁ♡
はぁ♡

だつて 凄いんだもん…
紗良たち おまんこで
繋がってるみたい♡

やあつ そんな
恥ずかしいこと
言わないでえ

あんっ 楓ちゃんど
紗良のおまんこ♡
絡み合ってるよお…

♡…♡♡♡♡

♡♡♡

おまんこ…
おまんこ…





はあ♡
はあ♡

あ♡ イツちやう♡
んは♡ ちゅ♡
んちゅ♡ るる♡

紗良…♡♡
ん♡ ちゅ♡
ん♡ ちゅ♡

んは♡ 音♡
吸♡ ちやらめえ♡

ん♡
ん♡

ん♡
ん♡

その花びらにくちづけを
わたしの王子さま



えっ? ええ...

…今キスした

おおはよう
紗良…

……

とろとろのえつちな汁が
お互いの膣口から
溢れだしている

一気に体に力が入り
アクメを迎えた

びしょ
びしょ

あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ

その花びらにくちづけを
わたしの王子さま

基本画像21枚+立ち絵4体
差分を含め 総CG枚数927枚

原画：ぺこ
シナリオ：佐野晋一郎

その花びらにくちづけを

わたしの王子さま

コミック版